



虫の目、鳥の目通信 第16号



会員募集中!

2007年10月15日

2007年9月30日 簡保レクセンター跡地 自然観察会 大人10名



数日前からやっと秋の気配になりました。朝から小雨でしたが、観察を始める頃には止んでくれました。先日見つけた三国のキノポリトタテグモの古巣をみんなに見て貰いました。クモの巣と言わなければわからないほど精巧につくられていましたね。その後丘グループと広場グループの二手に別れて跡地の要所要所に名前を付けました。



写真：廣 伸俊

私は広場グループでした。駐車場のそばの桜では、木々を伝ってきたシジュウカラやエナガの混群がしばらく楽しませてくれました。雨があがって、クモの巣には水滴がついてキラキラきれいでした。イスノキ通りの真ん中にも大きな巣がありました。「あれあれ、小さいのがある。えっ、こいつら銀色ですごきれい!」と松下さん。よく見るとジョロウグモの巣の周りに1mm程の小さな点のようなものがあちこちに付いています。ちゃっかり小さな巣をつくっているものも。まるで居候です。調べましたら、ヒメグモ科の「イソウロウグモの仲間」ということがわかりました。皆今日初めてこんなクモがいることを知りました。



ホオジロはさえずったり地鳴きになったり。時折モズの声も響いていました。バサバサだった地面、少々の雨では固いようです。又マトラノオ、ミソハギの仲間、カワラケツメイ(☆)を挿し木しました。

九州歴史資料館建設予定地のすぐ南の溝にはアカバナが咲いており、ニンギョウトビケラ、スジエビ、カワニナなどが沢山いました。

丘グループでは、カタテハやチャバネセセリなどを観察し、日陰にハグロソウの種〔★〕をまきました。

その後のそみが丘生楽館で編集会議を行い、本日歩いた部分の名前の確認をしました。



ちょっと立ち話



三国の溜池でスジエビ獲りをしている方にお話を伺いました。

実は、以前も別の溜池でお会いしていました。「今日はこっちですか? 何を見てるんですか?」と声をかけてくださいました。植物や生きものですよ。と答えましたら、「昔は狐もおったですもんね。今は見ませんな。それから、アオバトが弁財天のそばに沢山いたけどなあ。」いるのはいるみたいですよ。はねを拾ったこともありますし。「そうですか。あの辺りにいくといっぱいおったけどなあ。他に、ほね、カモがものすごくおったですよ。」50年くらい前ですか? 西鉄は通っていたんですよ。「ああ、通っていました。当時、井ノ浦の一冬の権利金は70万円くらい。当時の70万は大金だったけど、それ以上にカモは獲れたからですね。何しろ空が真っ黒になるくらい飛んでいましたもん。獲れたカモは馬車に載せて運んだもんです。軽トラなんて無かった時代だ。マツタケも生えていたけど落ち葉かきをしなくなってから、だめになったですね。天然の椎茸も沢山あったんですが。」今も栽培なさっている方もいらっしやいますね。「ああ、おるですよ」

三沢の方では、湧き水があったそうですが、「ああ、津古でも一カ所だけあったです。一家族だけがそこを使ってたから、あまり知る人はいないと思います。まあ、これだけ溜池があちこちあるんだから、湧いてるところもあるでしょ。それが飲めるか飲めないかは別としてね。」と言われると仕掛けた網をあげにいかれました。では、私も観察に。「ヒラクチ(まむし)には気をつけなさいよ」。そうですね。気をつけます。

次回編集委員会 10月19日(金) 10時~13時 小郡市埋蔵文化財調査センター

次回予定 10月27日(土) 9時30分集合 簡保レクセンター跡地

尚、11時から13時まで自然観察冊子作成の話し合いを光が丘公民館で行います。お腹がすく方は、おにぎりでもお持ち下さい。また、編集委員会のみ参加される方、場所が変わることもありますので、松永までご連絡下さい。その次は、11月24日(土) 9時30分集合です。

電子版 改訂版

発行元 三国丘陵の自然を楽しむ会

連絡先 willard@mbc.ocn.ne.jp

編集協力 松下彩二・雅子、

勝野史雄、

写真協力 廣 伸俊

写真・カット・文 まつながきよこ